国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第3号 (2000年4月1日発行)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001958

季刊 国立国語研究所広報誌

国語研の窓

平成12年4月1日　第3号
発行　国立国語研究所
The National Language Research Institute
編集　国立国語研究所企画広報委員会

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14
電話 03-3900-3111 FAX 03-3906-3530
URL http://www.kokken.go.jp/

もくじ

連載
暮らしに生きることば③ P.1

連載国立国語研究所の紹介③
調査研究の成果がもたらしたもの P.2

研究プロジェクト紹介
学校の中での敬語意識と使用の調査 P.3

研究成果の紹介
新プロ「日本語」
日本語観国際センサスの実施 P.4~P.5

データベース紹介
ことばに関する新聞記事 P.6
ー『切抜集』とデータベースー

ことばQ&A P.7

終了報告
国際シンポジウム
第4専門部会「談話のポライトネス」 P.7

終了報告
成人学校ウインターセミナーへの協力 P.7

ことばフォーラムの御案内 P.8

独立行政法人 国立国語研究所法について P.8

国立国語研究所正門

連載第３回　暮らしに生きることば

日本の名字の中に，「椛沢」さんや「椛島」さんのように木偏に「花」と書く漢字を見ることがあります。これらの「椛」の字は，読みが「かば」であることからわかるように，「白樺」（しらかば）の「樺」と同じ字で，日本の人が「樺」の「華」の部分を「花」に置き換えて，新たに作り直したものです。これは日本でかなり古くから使われていて，今でも名字や地名などの固有名詞に残っています。

この「椛」の字には，漢和辞典によると，「もみじ」という訓読みも見られます。これは，もみじの葉が赤く色づいて，まるで「花」のように見えるために，新たに与えられた読み方です。先ほどの「樺」に由来する「椛」とは，別個に作られた日本製の漢字，つまり国字だと思われます。

さらに，漢和辞典や国語辞典の世界を超えて，実際のさまざまな使用例を探っていくと，「椛」にはほかにもたくさんの読み方があったことが分かります。

たとえば，各地の細かな地名には「椛」と書いて「ぐみ」とか「もも」と読ませるものなども見つかります。ぐみは岩手県の地名に見られるだけですが，ももは長野県，静岡県のほか奈良県の地名にも採集されます。これらの植物名には，中国の漢字でも「紅葉」（もみじ），「茱萸」（ぐみ），「桃」（もも）などの表記があるわけですが，日本各地で人々が，「花」の咲く，あるいは咲いたように見える「木」を，「椛」の字によって効果的に表現しようとした跡をうかがうことができます。

連　載

国立国語研究所の紹介　③

調査研究の成果がもたらしたもの

国立国語研究所長　甲斐睦朗

0 はじめに

正門の桜並木が国立国語研究所の平成12年度の始まりを祝福するようにやわらかな花を咲かせています。

国立国語研究所は，来春の4月には独立行政法人制度による研究機関に移行するということで，私どもは，これまでの国立国語研究所の業務を継承しつつ，新しい目的・計画をもつ国立国語研究所として新生させようとしています。

そこで，国立国語研究所が，これまでに国語の研究や国民の言語生活の向上等の課題に関してどういう役割を果たしてきたかについて，既刊の報告書を紹介しながら記してみようと思います。今回は，3冊の報告書を取り上げることにします。

1『現代雑誌九十種の用語用字』全3冊 昭和37～39年刊

国立国語研究所は，創立以来，共同研究体制で大規模な調査研究に取り組んできました。この文献は，書名に示されるように90種の現代雑誌の用語・用字を6名の研究員が共同で調査したものです。

この調査の成果は，刊行されて40年近く経った今でも学術研究・出版産業を中心に様々な領域に活用されています。例えば，20以上の度数をもつ見出し3,000語が，国語辞典の見出しの重要語の選定の資料に使われたりしているわけです。

なお，平成11年度から進めている「現代雑誌200万字言語調査」は，この調査を受け継いだものです。2つの調査を比較することによって，外来語の増加や専門用語の消長など、20世紀後半の雑誌用語の変遷を明らかにしようとしています。

2『日本言語地図』全6巻　昭和41～49年刊

この文献は，日本全体から2,400地点を選んで，基礎的な語285について，各地点でどのような言い方になっているかを調査し，全部で300枚の地図にまとめたものです。例えば「大きい」意味を表す語としては「おおきい」はもちろん，「でかい・どえらい・いかい」などの数多くの言い方が，優劣をつけないかたちで北海道から沖縄まで平等に記載されています。この調査研究は，現代の共通語がどのようにして成立したのか，各地の方言はどのようにして今の姿になったのか，ということの一端を明らかにしました。また、共通語と方言という二者択一的な優劣を決める見方でなく，日本語を地理的な広がりの中で有機的にとらえる見方を推進しました。

3『児童の作文使用語彙』平成元年刊

この文献は，地域文集に掲載された2,340編の小学生の作文の用語を調査し，20,000語余りの見出し語に整理しています。学年ごとの統計や度数順の調査を行ったことで，児童がどういう言葉を使用しているかが分かります。国立国語研究所は幼児及び児童生徒の語彙や漢字などの習得の問題を言語発達の観点からとらえる調査研究を続けていて，漢字の学年配当やその改定の作業などの基礎資料として提出しています。

これらの文献は，国立国語研究所，国立国会図書館，主な公立図書館などで見ることができます。

国立国語研究所は，これからも，大学の研究室などでは取り組めない大規模な基礎研究，また年月をかけてじっくり取り組まなければならない調査研究に立ち向かう所存です。

研究プロジェクト紹介

学校の中での敬語意識と使用の調査

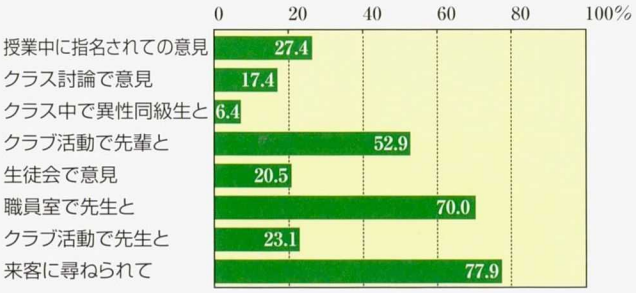
言語行動研究部第一研究室長　尾崎喜光

ここ数年，中学・高校での学級運営・学校運営の困難さが，「学級崩壊」「学校崩壊」という言葉でよく話題にされます。教育現場の先生方にとっては本当に頭の痛い，難しい時代になったと思います。

学級運営・学校運営を考える上で，生徒たちの言葉遣いをどう指導するかは，現場の先生方にとって避けて通ることのできない問題だと思います。これを考えるに当たっては，当の生徒たちがいったい言葉をどう考えているのか，また実際どう言葉を使っているのかを把握し，それを土台に議論する必要があるでしょう。

そのような目的で，国立国語研究所では学校の中での生徒たちの言葉遣いを調査しました。言葉遣いの中でも「敬語」を中心に，生徒たちの意識や使用の実態を探りました。ただ「敬語」と言っても，狭い意味での「敬語」だけに限定せず，実際に敬語と同じように機能している表現（例えば相手の呼び方や返事の仕方など）にまで拡大して調査項目としました。調査対象は東京の中学・高校，大阪の高校，山形の中学です。

次のグラフは，生徒たちが学校生活のどのような場面で言葉遣いに気を使っているかを尋ねた結果です（東京の中学の場合）。



どのような場面で言葉遣いに気を使っているか？

数値が高いのは「クラブ活動で先輩と」「職員室で先生と」「来客に尋ねられて」です。逆に数値が低いのは「授業中に指名されての意見」「クラス討論で意見」「クラスの中で異性同級生と」「生徒会で意見」「クラブ活動で先生と」です。前者は＜人＞に対する気遣い，後者は主として＜場＞に対する気遣いです。

つまり，学校生活の中で生徒たちが言葉遣いを気にするのは，クラスや生徒会での発言といった＜場の改まり＞よりも，目上や知らない人との＜社会的・心理的距離＞と言えそうです。

「クラブ活動で先生と」よりも「クラブ活動で先輩と」の数値が高いのも注目されます。クラブ活動では先生よりも先輩の方が気の張る相手と意識されているようです。

このように，相手や場面により気を使う度合いに違いのあることが確認されます。ということは，個々具体的な表現についても，相手や場面により使いやすい表現・使いにくい表現の違いのあることが推測されます。

次のグラフは，自分を指す表現のうち，男子の「ボク」と女子の「ワタシ」の使用率を相手別に示したものです（東京の中学と山形の中学の場合）。

相手による「ボク」の使用率の違い（男子）

相手による「ワタシ」の使用率の違い（女子）

いずれも，相手が友達の時よりも先生の時に一層使う傾向が認められ，改まった言葉と意識されていることがわかります。なお，「使い分け方」に地域差が見られます。山形では相手による差が大きいのに対し，東京ではそれほどでもなく誰に対しても比較的よく使われています。

調査報告書の刊行の準備は現在最終段階です。近く皆さんに御覧いただける予定です。

研究成果の紹介

新プログラム
「国際社会における日本語についての総合的研究」

日本語観国際センサスの実施

言語教育研究部長　米田　正人

国際交流基金の調査によると，日本語学習者の数は優に200万人を越えています。外国へ旅行した時に，色々な場面で日本語を見聞きした経験をお持ちの方が大勢いらっしゃるのではないでしょうか。日本人の目から見ると，以前に比べて日本語が国際社会での地位を得つつあるように思われます。その日本語について，諸外国の人たちはどのように見ているのでしょうか。これまで，その疑問に対する客観的な回答は見当たりませんでした。

そこで私たち国立国語研究所が中心となって，「日本語観国際センサス」という国際比較調査を実施しました。この調査は1997年1月から1998年2月（日本は1998年7月）に，世界28の国と地域に住む15歳～69歳の男女に対して行いました（2号に地図を掲載しています）。調査項目は，日本語や日本語学習に関する項目を始めとして，母語や英語に関する項目，さらには日本人や日本に関する項目など多岐に渡っていますが，日本語が世界の人たちからどのように見られているのかを明らかにすることがこの調査の中心テーマとなっています。今回は「今後世界のコミュニケーションで必要となる言語」と「英語優位に対する意識」について，アジア・オセアニアの結果を中心に見ることにしましょう。

◆今後世界のコミュニケーションで必要となる言語

質問は，「今後世界のコミュニケーションで何語が必要になると思いますか。母語も含めてすべてお答えください。」というものでした。選択肢を準備するのではなく自由にいくつでも答えることが出来る複数回答形式になっています。早速結果を見ることにしましょう。

ほとんどの国で「英語」という回答が断然トップの地位を得ています。英語が公用語である国を除くと，第２位にその国の言語があげられるケースが多く見受けられます。しかしパーセントは各国まちまちで，中

表１　今後世界のコミュニケーションで必要となる言語（複数回答可）

	主要言語	第１位		第２位		第３位	
オーストラリア	英語	英語	83	日本語	50	中国語	29
シンガポール	英語,中国語,マレー語,タミル語	英語	95	中国語	41	日本語	13
タイ	タイ語	英語	97	タイ語	22	中国語	15
インドネシア	インドネシア語	英語	87	インドネシア語	49	日本語	8
フィリピン	フィリピノ語，英語	英語	98	フィリピノ語	25	スペイン語	6
ベトナム	ベトナム語	英語	98	フランス語	36	中国語	19
モンゴル	モンゴル語	英語	93	モンゴル語	39	ロシア語	33
台湾	中国語	英語	91	中国語	39	日本語	17
中国	中国語	英語	93	中国語	65	日本語	21
韓国	韓国語	英語	93	韓国語	48	日本語	43
日本	日本語	英語	90	日本語	21	中国語	9

［注］　数値はパーセントを表す。

国では「中国語」と回答する人が100人中65人いたのに対して，タイや日本では「タイ語」「日本語」がそれぞれ20人程度となっています。どこの国でも自分たちが普段使っていることばが今後世界でも必要な言語となると回答しているわけで，そうなって欲しいという願望が含まれた意見とも考えられます。

※「中国語」について補足説明をしておきます。中国調査の場合，「中国語」と回答した人も大勢いましたが，なかには「北京語」とか「上海語」，「客家語」というように回答する人も大勢いました。上の「中国語」はそれらをすべてまとめて集計したものです。

さて，「日本語」について見てみましょう。多くの国で第3位にあらわれるケースが目立ちます。特記すべきはオーストラリアと韓国で，前者では50%が，また後者でも43%の人たちが，「日本語が今後世界のコミュニケーションで必要となる」と考えています。

このように，オーストラリアやアジアの国々，特に東アジア諸国では日本語に対する意識が大変高いのですが，ヨーロッパの国々では傾向が異なります。ほとんどの国で上位5位までに日本語はあらわれてこないという結果になっています。かろうじて第5位にあらわれたのが，トルコ（11%），イギリス（10%），ロシア（7%）の三か国でした。

ちなみにアメリカでは，日本語は第3位，23%でした。ヨーロッパの国々はもちろんアジアの国々と比べてみてもとても高い比率になっています。

この結果を見ると，程度の差こそありますが，日本語の必要性を感じている国がずいぶんあるということがわかります。皆さんはどのような感想をお持ちになりますか。

◆英語優位に対する意識

先の質問で今後必要となる言語として「英語」がずば抜けた比率を示していました。一方現状でも英語優位という認識は世界共通と言うことが出来ます。次に英語優位という現状認識に対して「そう思う」と回答した人たちについて，英語優位に対する意識を見てみることにしましょう。この質問に対する選択肢は以下のようなものでした。

1. 英語が優位なことはよいことだ
2. 英語が優位なことはよいと思わないが，仕方がない
3. 英語が優位なことはよいと思わない。もっと他のことばが使われるべきだ

英語を公用語，あるいは日常の生活で使用している国々では，「1. よいことだ」という意見が大多数を占めています。逆に，ブラジル，アルゼンチン，フランス，スペインなどのラテン諸国では，「3. 他のことばが使われるべきだ」という英語優位を是としない意見の比率が高くなっています。アジアに目を向けると，日本や韓国などは「2.よいとは思わないが仕方がない」という中間的回答が多く見受けられます。中国・台湾は，「1. よいことだ」が60%前後，「2. よいとは思わないが仕方がない」が30%前後と，フィリピンなどと同じように，日本，韓国とラテン諸国との中間的位置にあります。

表2　世界で英語が優位であることに対する賛否・意見

	賛否			意見（「そう思う」を母数とした%）		
	そう思う		全体	1.よいことだ	2.よいとは思わないが仕方ない	3.他のことばが使われるべきだ
オーストラリア	92%	938人	1,024人	72%	15%	13%
シンガポール	95	978	1,027	86	11	4
タイ	95	953	1,000	87	5	8
インドネシア	88	885	1,006	75	17	8
フィリピン	91	912	1,000	66	23	11
ベトナム	95	946	1,000	75	17	9
モンゴル	95	952	1,000	60	23	17
台湾	89	1,015	1,138	62	24	15
中国	78	2,274	2,917	56	36	8
韓国	95	947	1,000	44	46	10
日本	83	2,450	2,950	36	58	5

データベース紹介
情報資料研究部

ことばに関する新聞記事
―『切抜集』とデータベース―

情報資料研究部第一研究室　池田理恵子

私たちの毎日の生活は，話し，聞き，書き，読むというさまざまな形でことばによって支えられています。では，私たちは実際の日常生活の中でことばをどのように使い，ことばの使い方についてどのような規範意識や価値観を持っているのでしょうか。また，ことばをめぐる状況やことばについての価値観は，時代とともに変わったのか，変わらないのか，変わったとすればどのように変わったのでしょうか。

ことばに関する新聞記事は，このような問いに手がかりを与えてくれます。国立国語研究所では，1949年から収集を続けていますが，12万件もの記事は，日付順に並べられているため，そのままの形ではことばの研究に使うことは困難でした。そこで，必要な記事がどこにあるかを自在に検索できるように，見出しをデータベースにしました。今後は，コンピューターを使って記事本文を読むことができるように，切り抜きそのものを電子化する予定です。

新聞で見る「書く生活」の50年

何を使ってどう書くかがこの50年でどのように変わったかを，新聞記事で見てみると……

■毛筆の履歴書で人柄がわかる？

40年ほど前の履歴書は，和紙に毛筆縦書き。「書類としての品格があり，人柄があらわれる」からとか。しかし，代筆も多かったようで，1956年，「履歴書のペン字横書き運動促進委員会」が活発な運動を展開し，大勢が「能率的」なペン字横書きに。

■年賀状は何を使って書く？

毛筆から万年筆，筆ペン，そして，サインペンへ。ワープロ年賀状は増えても，「もらってうれしい」のは手書きのよう。近年は，電子メールの年賀状も。

昭和31年8月1日

ペン字・横書
履歴書の"新生活運動"

古い習慣破ろう
東大生の考えから出発

主要会社も半数OK
学生就職対策本部 徐々に実効をねらう

「切抜集」で見てみると…

データベースの検索例

「書く」「毛筆」「年賀状」などで検索すると…

切抜集	台紙のページ	年	月日	新聞名	朝夕	ページ	執筆者	記事の内容
7	1030	1951	827	学園	朝		投書	就職試験と履歴書　毛筆の存在価値
50	7690	1956	701	毎日	朝	7	内部	履歴書はペン字横書きで　東大生が促進運動　実用的で経費も節約できる　求人側に賛否両論
51	9220	1956	801	朝日	朝	3	内部	ペン字・横書　履歴書の「新生活運動」　東大生の考えからの出発「古い習慣破ろう」　毛筆書きは単なる習慣、代筆も多い　学生就職対策本部　徐々に実効をねらう　主要会社も半数OK
51	9570	1956	807	中日	朝		内部	ペン字の履歴書　書家の立場から　性格がつかめない
51	10600	1956	829	産経	朝		内部	軌道に乗るペン字「履歴書」　通産省の日本工業標準（JIS）調査会で書式決定　十月から用紙市販　身上家族調書と組合せ
53	13060	1956	1027	毎日	夕	5	内部	ペン字横書き履歴書OK　求人側も八割賛成　日銀など「扱いやすく便利」
54	14050	1956	1129	東京	朝	8	内部	毛筆履歴書三分の一に減る　大田職安でアンケート
387	870	1979	1212	東京	朝		内部	年賀状　手書き57%　筆記具1位万年筆35%、2位筆ペン、3位サインペン　昔ながらの毛筆は7%
571	32590	1985	1220	日経	夕	13	内部	あて名書きシルバー人材センターに殺到　年賀状、お年寄りの達筆頼み　「字が下手」「本文も…」企業も家庭も
697	9810	1990	1116	読売	朝	9	内部	ワープロ年賀状は冷たい!?「ワープロ年賀状作らない」62%「手書き派」54% でも、実際自分で書くのは4割とか
732	1350	1993	428	朝日	朝	5	投書	ワープロより心伝わる自筆
739	1220	1993	1121	毎日	朝	1	内部	年賀状　手書きは47%　利用する筆記具　1位サインペン27%　2筆ペン23%　3万年筆20%　4ボールペン19%　5ワープロ7%　毛筆は6位4%
747	250	1994	709	読売	朝	20	内部	手紙　ワープロ全盛のご時世ですが「手書き派」が圧倒的　手書き派「心こもる親近感も」　ワープロ派「工夫こらせる」　使い分け派「目的に応じて」
764	780	1995	1209	毎日	朝	10	内部	ワープロ年賀状2年で倍増　17%の人が利用　「もらってうれしい」は手書きが断トツ
776	1350	1996	1222	読売	朝	21	内部	「電子年賀状」7割が「イヤ」　首都圏会社員調査
788	170	1997	1203	朝日	朝	13	内部	年賀状、何で書く？　1位サインペン31%　2位ボールペン24%　3位ワープロ・パソコン19%　4位筆ペン13%　手書き「もらってうれしい」75%　ワープロ・パソコン「あれば使う」51%
800	1010	1998	1211	朝日	朝	15	内部	電子メールで年賀状じわり浸透　欲しいのは「はがき」圧倒

ことばQ&A

「お湯を沸かす」？「水を沸かす」？

Q 質問　ボランティアで日本語を教えています。学生が「水を沸かす」と言ったので，「お湯を沸かす」と訂正したら，「先生，どうして『水を沸かす』はだめですか？」と聞かれ，うまく答えられませんでした。どのように答えたらいいですか？

A 回答　「を」には2種類の働きがあります。(a)「ボールを打つ」，と，(b)「ホームランを打つ」，とを比べてみましょう。(a) でボールは，打つ前からそこにありますが，(b) では打った結果がホームランになるわけで，最初からホームランというものがあるのではありません。

「料理を食べる」の場合、料理は食べる前からあるので (a) です。一方，「料理を作る」は，作った結果が料理になるので (b) です。

このように，単に何かに働きかける場合には (a) の「を」を使い，働きかけた結果何かになるという場合には (b) の「を」を使います。どちらの「を」が使えるかは動詞の意味によって決まりますが，「打つ」のように両方の「を」が使える動詞もあります。

さて，御質問の「沸かす」はどうでしょう。「お風呂を沸かしたけれど，まだ熱くならない」とは言えません。つまり，「沸かす」は，液体に熱を加えるだけではなく，熱を加えて「熱くなる」という結果までを意味しているのです。したがって，「を」の前には，熱くなった結果である「お湯」や「お茶」，「お風呂」などのことばが来て，熱くなる前の状態である「水」は来ないのです。

終了報告

国立国語研究所

第7回 国際シンポジウム

第４専門部会「談話のポライトネス」

平成11年12月4日（土）国立国語研究所講堂

米国のポライトネス（丁寧な言動）研究と，日本の敬語行動研究の連携によって，ポライトネスの談話理論の可能性を探ることを目的として，米国の研究者2名，日本の研究者4名を迎えて，シンポジウムを開催しました。このテーマには関心が高く150名の参加者を得ました。日本語と米国英語の談話レベルのポライトネスをめぐって，理論的な枠組みの提唱，談話分析の事例研究，ポライトネス表現の比較対照など，新しい分野を開拓しようとする意欲的な研究発表があり，活発な討論が行われました。

終了報告

成人学校ウインターセミナーへの協力

国立国語研究所では，小田原中央公民館が毎年実施している成人学校ウインターセミナーの講座に講師を派遣しました。

期日：平成12年2月9日，16日，23日，3月1日，8日，15日(水曜日)
時間：13：30～15：30
場所：小田原市中央公民館（小田原市荻窪３００番地）
対象：小田原市に在住，在勤，在学している16歳以上の者；定員30名
講座名：日本語☆再発見

ことばフォーラムの御案内

「フォーラム」というのは「広場」という意味の外来語です。国立国語研究所では，市民の皆さんと御一緒にことばについて考えたり話し合ったりできる「広場」のような機会を，「ことばフォーラム」と名付けて１年間に３回程度催すことにしています。平成１２年度の第１回は，以下のように開きます。前半で研究所員からのお話をお聞きいただき，後半では御参加下さった皆様とお話しするという内容です。

たくさんの皆様の御参加をお待ちしております。どうぞお出かけください。

入場無料

◆日時　平成12年5月13日（土）午後2時から午後5時まで
場所　国立国語研究所 講堂（５階建て建物の５階にあります）

◆テーマ　**年齢とことば**

ことばは時代とともに変わっていくものです。その一方で，ことばは一人の人の中で年齢とともに変わるものでもあります。子ども時代のことばから，若者時代のことばを経て，壮年時代のことばへ，ことばはどんなふうに変わっていくのでしょうか。

◆予定　**前半**　講演

1　年齢とともに変わることば　杉戸　清樹（言語行動研究部長）

ことばを覚えて話し始める子どもの時代から，社会に出ていろいろな人とことばを交わすおとなの時代まで，人はことばを使いながら年齢を重ねます。ことばは年齢とともにどんなふうに変わるのでしょうか。

2　「若者ことば」から「オジサンことば」へ　尾崎　喜光（言語行動研究部第一研究室長）

最近はいろいろなことばの調査で「若者ことば」が話題になっています。その一方では，とくに男性が中年になってから使い始める「オジサンことば」というのもあるようです。そういうことばは実際にどんなふうに使われているのでしょう。

3　教室の中での子どものことば　當眞　千賀子（言語教育研究部第一研究室 研究員）

学校の教室で，子どもたちは友達や先生とどんなふうにことばを交わしているのでしょうか。そのことばにはどんな特徴があるのでしょう。教室の中で生き生きと交わされることばのやりとりの姿をあらためて見つめてみましょう。

後半　御来聴のみなさんと研究所員が輪になってことばについて話し合います。

また第２回，第３回については，下記のとおり予定しています。
内容等の詳細は，次号（７月１日発行）において紹介します。

◆第２回　平成12年8月8日（火）
夏休み中の中学生，高校生を対象としたことばに関するフォーラム

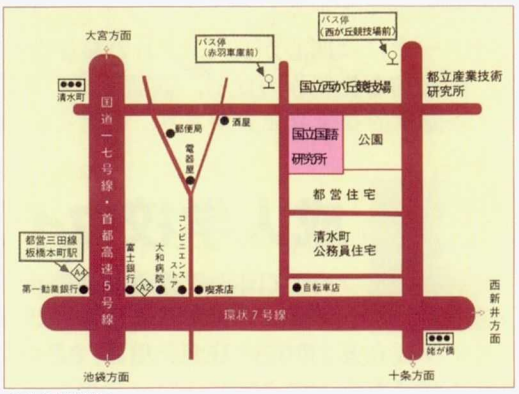
◆第３回　平成12年11月11日（土）
一般社会人を対象にしたことばに関するフォーラム

問い合わせ先：
国立国語研究所
庶務部庶務課庶務係
電話　**03-5993-7603**

独立行政法人 国立国語研究所法について

平成11年7月16日に独立行政法人通則法が制定され，同11月8日臨時国会に独立行政法人国立国語研究所法（いわゆる「個別法」）案が提出されて，同12月22日に可決成立，公布されました（平成11年法律第171号）。施行は，平成13年1月6日となっています。

<案　内　図>



<交通機関>
◆都営地下鉄三田線「板橋本町駅」下車徒歩10分
◆JR埼京線「十条駅」下車徒歩20分
JR赤羽駅（西口）より国際興業バス，西が丘競技場（赤羽車庫）行（バス停5番）で終点「赤羽車庫」下車1分

©2000 国立国語研究所